

今週（9月11日から9月15日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、日銀当座預金残高が360兆円台前半から半ばで推移する中、無担保コールO/N物は、今積み期間の最終週を迎えたことで、週半ばから若干の上昇基調となった。無担保コールO/N物は、週前半は先週同様に信託・証券業態の調達为中心で、地銀業態の調達ニーズは乏しく、加重平均レートは▲0.06%台での推移となった。12日以降は都銀・地銀業態の調達が増加したことで、加重平均レートが僅かながら上昇基調となり、14日には▲0.059%となった。積み最終日となる15日は、次の積み期間にかかる取引となる中、横ばいの展開となった。ターム物は、地銀業態では期を跨がない1～2W物を中心に▲0.055～▲0.04%の出合いが見られた。証券業態では期越えの調達が散見された。

固定金利方式による共通担保資金供給オペは、14日に1W・8,000億円と3M・5,000億円でオフアーされ、それぞれの落札額は4,300億円（期落ち額1,360億円）と120億円（期落ち額170億円）で、どちらも札割れとなった。

●レポ市場

今週のO/N GCは、▲0.090～▲0.065%のレンジでの取引となった。週前半は今積み期間の最終日が近くなり、投資家の資金調達意欲が強く、▲0.090～▲0.080%程度での引き合い。今積み期間最終日と来積み期間の初めにかかる13日のS/N(15-19)も投資家の資金調達が入り、▲0.090～▲0.080%での引き合い。14日のS/N(19-20)の取引は投資家の資金調達意欲がやや減退していたものの、TDB3M物の発行日にあたること業者の売物が厚く、▲0.090～▲0.080%での引き合いとなった。15日のS/N(20-21)の取引は、国債の大量発行日にあたったことで業者の売物が増加し、▲0.075～▲0.065%にレートが上昇している。

SCIは個別銘柄では5y130～132、10y335～347、20y160～161、30y50～55、40y9～10などのカレント銘柄近辺や、チーペスト周りの銘柄にビッドが多くみられた。

●短国市場

今週の短国市場は、8月後半から9月初頭に掛けてみられた海外勢の強い買いが一服したことや、レート水準が大幅に低下したことで参加者が限定的となっていることから、週後半にかけて軟調な展開となった。

新発の入札は14日に3M物、15日に1Y物の入札が実施された。3M物の入札は、先週の入札以降、在庫が余剰気味となっていることを受け、徐々にレートの気配が上昇する中で行われた。WI取引での出合いが見られない中、平均落札利回▲0.1394% 按分落札利回▲0.1175%と、平均こそ事前予想通りとなったものの、慎重姿勢の強まりからか、按分は流れる結果となった。入札結果を受け、セカンダリー市場では、按分近辺の▲0.120%でまとまった出合いが見られた。1Y物の入札は、WI取引で▲0.130%が少額出合う中、平均落札利回▲0.1308% 按分落札利回▲0.1278%と、概ね事前予想通りの順調な結果となった。

●CP市場

今週のCP市場は、週間の償還総額11,000億円程度に対し、発行総額は8,000億円程度と、9月末の有利子負債圧縮の動きからか、償還超のマーケットとなった。発行レートは、月内物で概ね0%近辺、9月末越え物では品薄感から投資家・ディーラーの玉確保の動きが強くマイナス圏での決着が見られているものの、週初にCP等買入オペのオフアー金額の減額（3,500億円→2,500億円）が通知されて以降は、オペレートの低下期待が後退し、レートがやや上昇する展開となった。

13日にはCP等買入オペが実施された。期越え物の積み上がりが見られ、オフアー額が前回より1,000億円減額の2,500億円でオフアーされたことから、平均落札レート▲0.006% 按分落札レート▲0.015%と、8月以降見られていたレート低下期待に反し、前回比（平均▲0.005% 按分▲0.029%）で按分が上昇する結果となった。

●短期金融市場関連指標

	日経平均（円）	新発10年物 国債利回り（%）	為替 （ドル/円中心相場）	無担保コールO/N （加重平均・%）	東京レポレート（翌日物・ T+1スタート・%）	日銀当座預金残高 （億円）
9/11（月）	19,545.77	△ 0.005	108.45	△ 0.064	△ 0.093	3,612,400
9/12（火）	19,776.62	0.015	109.40	△ 0.063	△ 0.087	3,638,700
9/13（水）	19,865.82	0.020	110.15	△ 0.062	△ 0.083	3,638,600
9/14（木）	19,807.44	0.035	110.47	△ 0.059	△ 0.086	3,641,500
9/15（金）	19,909.50	0.015	110.18	△ 0.060	△ 0.086	3,652,700

来週（9月18日から9月22日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
9/18 (月)	敬老の日				8月のユーロ圏消費者物価指数改定値
9/19 (火)	7月の石油等消費動態統計(経済産業省 13:30)				米FOMC(1日目) 8月の米住宅着工件数
9/20 (水)	日銀政策委・金融政策決定会合(1日目 14:00～) 4-6月期の資金循環統計速報(日銀 8:50) 8月の貿易統計(財務省 8:50)	TB3M 44,000億円 9/25発行	流動性供給 3,000億円 9/22発行		米FOMC(2日目) FRB 米経済見通し発表 8月の米中古住宅販売
9/21 (木)	日銀政策委・金融政策決定会合(2日目 9:00～) 日銀総裁定例会見(15:30)				
9/22 (金)		流動性供給 5,500億円 9/26発行			

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
9/18 (月)	敬老の日								
9/19 (火)	600	▲ 1,800	▲ 1,200	全店共通 CP買入 社債買入	▲ 1,500 ▲ 300 ▲ 100	4,400 2,500	5,000	3,800	TB3M発行▲44000償還43200
9/20 (水)	▲ 1,000	28,000	27,000	国債買入		8,800	8,800	35,800	国債の大量償還・利払い TB1Y発行▲23000償還6400 5Y発行▲22000償還40500 10Y発行▲23000償還55100 20Y発行▲10000償還5000 30Y発行▲8000 変動15Y償還4700 エネルギー対策借入▲6500期日6000 財政融資資金の回収
9/21 (木)	▲ 1,000	1,000	0				0	0	
9/22 (金)	0	▲ 2,000	▲ 2,000	被災地支援	▲ 800		▲ 800	▲ 2,800	流動性供給▲3000
週 間 合 計	▲ 1,400	25,200	23,800	—	▲ 2,700	15,700	13,000	36,800	

9/19は日銀予想、9/20以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、新しい積み期間に入る。基準比率が21.5%に増加されたことや、貸出増加支援オペの残高増加により、マクロ加算残高に余裕がある先からの調達が期待される。一方で、20日に国債の大量償還を控えていることもあり、様子見姿勢が続く可能性も考えられる。無担保コールO/N加重平均レートは、横ばいから小幅上昇となることが見込まれる。

レポ市場は、日銀オペ等を通して業者の売物が減少していくと見られ、足元は▲0.090～▲0.060%程度の推移と予想する。

短国市場は、20日に3M物の入札が予定されている。流通市場でのレートが全般的に上昇し、国内勢のニーズが開始する水準に近づいてきていることから、9月末の担保需要も含めて動向が注目される。短国買入オペは19日に7,500億円、22日に2,500億円で実施されると予想する。

CP市場は、月内物については引き続き0%近辺での決着が予想されるが、CP等買入オペのオファー金額が減額されたことで、9月末越え物のレートにどの程度反映されるのかが注目される。

主要なイベントとしては、19～20日に開催されるFOMC、20～21日に開催される金融政策決定会合が挙げられる。

◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。

◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目論見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入